

議事録(公表用)

会議名称	長野県図書館協会・長野県図書館大会のあり方検討チーム 第3回ミーティング		
開催日時	令和7年(2025年)5月28日 13:00~15:00	開催場所/ 方式	参集(県立長野図書館3階信州・学び創造ラボ)+WEB会議
出席者 (敬称略)	長野県図書館協会 林副会長、依田副会長、森理事長(県立長野図書館長)、山口小中学校図書館部会長、峯村公共図書館部会長、武田佳代(大学図書館部会長指名 信州大)、干川優(県教育委員会事務局生涯学習課)、長谷川松実(小中学校図書館部会長指名 木祖村立木祖小)、文平玲子(公募 市立須坂図書館長)、米山美保(公募 長野市立松ヶ丘小) (以上、参集) 原猛(長野県高等学校図書館協議会事務局長指名 赤穂高)、牧野優子(公募 飯田市立飯田西中)、棟田聖子(公募 松川村図書館長) (以上、WEB参加)		
ゴール(目的)	● 「図書館協会」「図書館大会」に係る課題改善のための方策、アイデア出し		
アジェンダ	① 自己紹介 ② 報告(第2回以降の動き) ③ 討論・今後の進め方(図書館大会) ④ 討論・今後の進め方(図書館協会) ・「指針」、協会事業の提案について ⑤ 図書館協会理事会(6/10)・総会(7/1)への提案事項 ⑥ その他		

➤ 図書館大会に関する議論

- ・ 図書館大会のオンライン併用は「必須」ではなく、実行委員会の判断に委ねる。
- ・ オンライン開催を想定した予算をあらかじめ準備しておく方針に賛成多数。
- ・ オンライン予算は図書館協会の予備費として積み立て、必要時に支出する案が提案された。
- ・ オンライン予算の有無が大会ごとに異なるのは望ましくないため、安定的な仕組みが必要。
- ・ オンライン併用により参加の幅が広がる一方、運営負担やノウハウ継承の課題も。
- ・ オンライン配信の一部(例:基調講演のオンデマンド配信)など、柔軟な運用が望ましい。
- ・ 図書館協会からの負担金(現在20万円)を増額する案も検討対象。
- ・ 図書館大会の経費は独立採算制であり、繰越金の扱いも含めて今後の課題。
- ・ 運営には「もの・こと・ひと・お金」が必要で、特に予算の確保が重要。
- ・ パンフレットの印刷は広告収入との関係があり、完全廃止は難しい。PDF配布と印刷物の併用、希望者のみ配布などの案が出された。
- ・ 各支部に運営を任せつつ、図書館協会としても支援体制を整える必要がある。

➤ 図書館大会マニュアル

- ・ 講師謝金額の目安(30万円)など、最低限のルールはマニュアル化すべき。
- ・ マニュアル作成は事務局が原案を作成し、スケジュールに沿って進行予定。
- ・ 図書館大会マニュアルは諏訪大会に間に合うよう事務局主体でたたき台作成。

➤ 図書館大会のローテーション・小中学校図書館部会のローテーションに関する議論

- ・ 小中学校図書館部会の地区研究会のローテーションが図書館大会にも適用されている現状を再検討。
- ・ 東信地区では負担軽減のため隔年開催とする案が出ているが、他地区とのバランスや研修機会の減少が懸念されている。
- ・ 南信地区では事務局負担軽減のため、4年に1回休催とする案が出された。
- ・ ローテーションの決定過程が不透明であり、意思決定の記録や透明性の確保が課題。
- ・ 図書館協会理事会での議論を経て、今後のローテーション案を決定する方針。

議事録(公表用)

- ・ 各支部の組織や運営方法が異なるため、ローテーション案の一律適用は難しい。
 - ・ コロナ禍の影響や教育課程の変化により、開催間隔を空けることが本当に負担軽減になるか再検討が必要。
 - ・ 小中学校図書館部会にローテーション案を一度戻し、再検討と代替案の提示を依頼。
 - ・ 図書館大会と小中学校図書館部会の地区研究会は本来別物であり、連動の必要性を再考。
 - ・ 各支部の実情（市町村数、校数、支部構成など）を踏まえた柔軟な対応が必要。
- 図書館協会の組織と支部構成
- ・ 支部構成は「学校と公共の混合」「学校のみ」など多様。
 - ・ 支部長の選出方法も異なり、情報共有に課題あり。
 - ・ 校長会や教育委員会との関係性も支部ごとに異なる。
 - ・ 図書館協会の存在や役割が十分に認識されていない現状がある。
 - ・ 図書館協会の存在感や方向性を明確にする必要性が指摘された。
 - ・ 図書館協会の予算構成（会費以外の収入も含む）を再整理する必要性がある。
- 図書館協会総会のあり方
- ・ 総会が最終決定機関だが、出席者が少なく、形骸化しているとの指摘。
 - ・ 総会や部会総会を同日開催し、オンライン併用することで参加者を増やす案が出された。
 - ・ 意思決定の流れが不明瞭なため、整理が必要。
- 地域の図書館組織の連携
- ・ 木曾地域では公共と学校図書館を内包するような地区全体の組織がなく、組織的なつながりの必要性が指摘された。
 - ・ 他地域の組織図（例：佐久）を参考にする提案あり。
- 指針改訂とスケジュールに関する議論（指針の見直しについて）
- ・ 現行（H24年版）の指針をベースに、加除修正して現代に合う内容に改訂する方針。
 - ・ 館種ごとの章立てを維持しつつ、横のつながりやバリアフリーなど新たな視点を加える。
 - ・ 特別支援学校や高校図書館の扱いも含め、組織的な整合性を保ちながら見直す。
 - ・ 指針改訂は時間をかけて R8 年度を目標に進める。
 - ・ まずは図書館大会マニュアルの作成を優先し、その後に指針改訂に着手する予定。
 - ・ 指針は時間をかけて検討し、関係者が分担して章ごとに見直しを進める。
 - ・ 指針の見直しは、各部会ごとに章を分担し、意見を出し合いながら進める。
 - ・ 横断的な課題（バリアフリーなど）についても意見を募集。
 - ・ 意見提出の仕組みや送付先は事務局から案内予定。

(了)